

令和4年9月5日

令和4年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人 札幌青葉学園 北海道看護専門学校
学校関係者評価委員会・自己点検評価委員会

学校法人 札幌青葉学園 北海道看護専門学校 学校関係者評価委員会は、自己点検評価委員会において作成された令和3年度自己点検評価報告書に基づき学校関係者評価を実施したので、以下の通り報告いたします。

記

1. 日時：令和4年7月19日（火） 午前10時30分～午前11時50分

2. 場所：北海道看護専門学校 3階会多目的ラウンジ

3. 学校関係者評価委員会委員（敬称略）

<委員長>

居上 優香 社会医療法人北海道恵愛会 札幌南一条病院 看護部長

<委員>

千田 典子 医療法人社団研仁会 北海道脳神経外科記念病院 看護部長

樋爪 昌之 樋爪昌之公認会計士事務所 所長

高橋 春佳 医療法人菊郷会 札幌センチュリー病院 看護師 ※当日欠席

4. 事務局（自己点検評価委員会委員）

田所 亮一 北海道看護専門学校 校長

小松 恵治 同上 統括長

川崎 恵子 同上 参事

坪 由香 同上 教務主任

熊谷 昌恵 同上 教務主任補佐

小倉 藤緒 同上 教務主任補佐 ※当日欠席

後藤 まふみ 同上 事務長

荻野 健司 同上 学生支援室長・統括長補佐

5. 主たる議事次第

1) 委員長の選任

2) 令和3年度自己点検評価報告書について報告および質疑応答

3) 学校関係者評価

6. 学校関係者評価委員会評価結果 別紙参照

令和4年度 北海道看護専門学校 学校関係者評価委員会評価

I 令和3年度重点目標に対する自己点検・評価

A. 教育活動および教育環境の整備

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 遠隔授業の円滑な実施	2.5	2.6	COVID-19感染症の影響により前年度に続き双方向性を担保したTV会議システム(zoom)利用による遠隔授業を余儀なくされたが、前年度に得た経験を活かし授業を行い、概ね円滑な授業が実施された。しかしながら、教員によるテクニカルな操作や“使いこなし”の技量の差が表面化した。また、ハード面でPCのスペックやWi-Fiの通信速度が十分とは言えず一部支障を来す場面が見受けられた。PCのスペックアップは今後の課題である。 前年度同様対面授業に比較して学修成果に課題を残す状況となった。	3.0	
(2) 臨地実習の学内実習への振替えに伴い、円滑な実習の実施と目標教育到達レベルの確保	2.5	2.5	COVID-19感染症による影響を踏まえ重点目標としたが、可能な限り臨地における実習を実施するとの方針で実習計画を立てた。しかしながら緊急事態宣言の発出を受け急速学内実習に振替えざるを得ない状況となった。前年度はある程度計画的に学内実習に振替実施したが、今年度は実施間際に学内に振替える状況となった為、準備不足が否めなく、物品も不足する状態での実施となった。そのような中でも、前年の経験を活かし各領域がそれぞれ工夫した実習を展開し、学生からも概して臨地実習では出来ない学修が出来たとの良い授業評価を受けた。臨地実習とは比べ様がない部分はあるものの、ほぼ全員が単位を修得する事が出来、相応に目標教育到達レベルの確保が出来たと考えている。やや低い評価となったのは、急速の学内への振替による準備不足や学生への周知不足が影響し一部情報漏洩に当たる行為(学外に影響のない事案)等が発生したことによる。	3.0	・準備不足は今回はやむを得ないものと考えているが、次年度以降は今回の反省点も踏まえ万が一の備えしておくべきである。 ・普段から情報管理の重要性を意識する事が重要である。特にUSBを含めたデバイスの取り扱いが重要。
(3) 令和4年度より実施予定の厚生労働省によるカリキュラム改正への対応	2.4	2.6	厚生労働省によるカリキュラム改正に対応すべく、教育理念、教育目標、カリキュラムおよびシラバスの改正を行い認可申請を経て2月に監督官庁から認可を得た。やや評価が低いのは、他の専門領域との整合性について準備不足等を指摘する声による。	3.0	
(4) ICT教育の推進					
(ア) 電子教科書の円滑な導入と使用環境の確保を図る	—	2.3	札幌近郊の看護系専門学校では初めて、令和3年度生より電子教科書を導入した。前年度後半よりハード・ソフト面で準備を行い、ICT委員会を設置し円滑な導入・運用を図った。評価がやや低いのは、教員用のパソコンのスペックが電子教科書の導入に対応していない、iPadだけによる運用となっている事。およびiPadの学校保有台数が初年度のため3台と少ない事による。PCのスペックアップは令和4年6月頃にPCの入替を進め全教員電子教科書対応可能とする予定。また、iPadも毎年相応台数を購入予定である。	2.7	・電子教科書など先進的な取り組みは評価できる。学生にとって電子教科書のメリットは大きいと思う。導入による学修効果の最大化を図るよう期待する。
(イ) office365を導入しテレスタディ環境の整備を図る	2.4	2.7	令和2年度よりOffice365の学校用のドメインを取得し、学生、教職員全員のアカウントを作成し利用を開始した。今年度は2年目になりOffice365Teamsの利用も浸透しテレスタディの環境は整備された。やや評価が低いのは、教員によるスキルの相違が大きい事とPCのスペックへの不満による。	3	
(ウ) 電子書籍の蔵書増及び医学論文データベース等の利用環境を図り一層の教育環境の充実を図る	2.3	2.4	令和2年度より学生および教員が利用できる医学論文データベースとして医学中央雑誌刊行会が作成する「医中誌(医学中央雑誌)」を導入したが、今年度もアクセス数が200弱に留まり、その有効利用の方策、方法等に課題を残した。 電子書籍については、要望が無かったことなどから新規購入は無かったが、電子教科書の導入により、学生のデバイス環境も向上する事から、その利便性に着目し積極的に予算化し計画的な蔵書を図って行く必要がある。	2.7	・学生のニーズにあわせるだけではなく、教員側からも電子化の利点を伝えて積極的に進めると良いと考える。 ・医中誌の有効活用と学生への周知を進めて欲しい。

B. 学修成果と学生支援の整備

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 看護師国家試験の受験者全員合格を目指す	2.5	2.5	今年度の合格率は、新卒者については、80名中77名が合格し合格率96.3%、既卒者2名は何れも不合格となり新卒既卒合計の合格率は93.9%であった。全国平均は91.3%であった。 国家試験対策担当教員を中心に前年度の実績等を分析し国家試験対策の実施計画を立案しそれに基づき各施策を実施している。また、計画的に全教員が協力、分担し放課後等の空き時間も利用するなど、国家試験対策の指導に当たる体制が整っており、国家試験合格率は、毎年全国平均を上回っている。2名既卒者が2年連続不合格になった事は、今年度の不合格者への対応を含め今後の課題と考える。	3.0	・残しながら不合格者がいたが、適切な支援は出来ていると感じる。 ・高い合格率を維持しており、放課後を含めた日々の学生への指導の成果が出ていると思う。
(2) 退学率の低減を図る(前年度比と比べ)	2.8	2.6	令和3年度の退学者数は、除籍処分の1名を加え4名であった。前年度が除籍となった1名のみであったことから前年に比べ退学率の低減は図られなかった。 これは、COVID-19感染症の影響で遠隔授業が中心となったり学生交流関係の学校行事が皆無に近かったりした中で潜在化していた学生の精神面の不安定化が徐々に顕在化し、2年分が今年度に現れたとも考えられる。 しかし、開校以来の年平均5名を下回る結果は、一定の評価に値すると考えている。 これは教員間の連携を強化し、学生一人ひとりの動向を細かく把握し、担任中心に学生や必要に応じ保護者との面談を行うなど問題解決に向けた学生へのサポートの結果と考えている。	3.0	・コロナ禍の影響も考えられ、退学者が例年より多かったことはやむを得ないところもあるが、より一層の支援を期待する。
(3) 臨地実習施設との連携を図り、臨地実習施設への就職率(60%以上)の向上を図る	2.6	2.8	今年度卒業生(8期生)の就職希望者は79名。そのうち実習施設への就職者数は43名で実習施設への就職率は54.4%となり目標の6割には達しなかった。これは例年の倍近い11名が道外に就職した事が大きく影響した。比較的评价が高い結果となったのは、12月に開校以来初めて、校内にて実習施設の16病院によるブース形式の就職説明会を主に2年生を対象に開催したが、その反響によるものと思われる。	3.0	・実習を受けている施設側としては、正直なところ一人でも多く入職して頂きたいという思いはある。校内の就職説明会はぜひ継続していただきたい。

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(4) 学生への経済的支援の充実を図る ・修学支援法をはじめ、教育訓練給付（専門実践教育訓練）金制度などの支援制度の周知、案内および申請のサポートを通し同学生への経済的支援を行う	2.8	2.8	修学支援法については、令和3年度においても文部科学省より修学支援法の対象校として継続して認可を取得した。学生には適宜適切に案内・説明会を行い保証人等からの相談にも対応し、希望者全員の26名（前年度より4名増）が支援対象者に認定された。この他利用者が最も多い学生支援機構の奨学金や社会人学生に大きなメリットの教育訓練給付金制度さらに自治体による奨学金制度等々対応担当者を決め希望者に適切に対応し支援に当たった。また、コロナ禍による収入減に対する国からの特別措置に対しても迅速に対応し、学生から謝意を受ける事が出来た。	3.0	
(5) 学生への就職支援サポートの強化 ・校内就職説明会等の実施、医療施設等への訪問等の実施	2.5	2.8	12月に開校以来初めて校内就職説明会を開催した。実習施設の16病院を招き、主に2年生を対象としたブース形式の説明会で、学生および参加病院から高い評価を得た。 この他クラス担任及び教職員全体での学生に対する細やかな就職指導体制が整備され、学生一人ひとりが将来の目標実現に向けて自主的・計画的に就職活動を行うことが出来るようにサポート体制が有効に機能している。また、教員による個別の指導、支援のほか学校内での就職ガイダンスも実施している。	3.0	・病院側の説明者として比較的年齢の近い卒業生が中心になって就職説明会ができれば良いと思う。 学生も就職先の支援体制、教育プログラム、給料などについても具体的に確認できる場になる。

C. 学校運営と学生募集の強化

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 新型コロナウイルス感染症の感染対策の実施	2.8	2.7	学内で取り纏めた感染予防対策に基づき、①基本的な感染予防対策の指導②健康状態の把握③出席停止等の明確化④環境消毒等を徹底して行った。また、教室の収容率の低減化、感染状況に応じて遠隔授業を行うなど、密回避、接触抑制策を実施した。感染防止用備品等については、消毒材、清拭材、飛散防止スクリーン等を各所に、学生にはマスク、フェイスシールドを配布し感染防止に万全を期した。結果的に学校内を起因とする感染者はゼロであった。	3.0	・今年度も学校内を感染源とする感染がなかったのは、評価できる。
(2) 新型コロナワクチンの学生への優先接種を図り、安全・安心な教育環境の構築の一助とする	—	2.8	看護学生においても医療従事者としてワクチンの優先接種が可能との情報を入手し実習先の病院の協力を得て6月から開始し、当初2回接種が基本とされていたが、8月前半までに学生および教職員の2回目接種を希望者全員が完了した。看護系学校の中では最も早期に2回のワクチン接種が完了したものと自負している。3回目の接種については集団での接種とはならなかったが、実習病院を中心とした協力のもと順調に接種が進んだ。	3.0	・早い段階で2回目のワクチン接種が完了したことも、上記の結果に繋がったと考えられ、学校の対応は評価できる。
(3) WEB出願の円滑な導入と運用	—	2.8	令和4年度生募集より初めてWEB出願システムを利用した入試を行ったが、概ね順調に導入できた。WEBに切り替えたことにより、出願ができない出願希望者も出てくるかと想定していたが、紙ベースの出願を希望するものは皆無であった。導入メリットとしては、願書の下書き時点からシステム利用で確認できるので出願者数が予測しやすかった事、および検定料の入金手続状況が瞬時にわかることが大変便利であった。今後の課題としては、携帯のメール設定などによって、システムからのメッセージを受け取れない等の問題が見受けられたので、オープンキャンパス等で学生に補足説明をするなどし、より円滑に行える様に工夫する必要がある。	3.0	
(4) 入学者の80名確保と本校のブランディングの強化					
(ア) ホームページ上の学校情報のタイムリーな発信	2.6	2.8	ホームページ（HP）上への学校情報の発信は、担当者を決め必要な情報の発信に努めた。	3.0	
(イ) 入試説明会・オープンキャンパスの充実	2.7	2.8	入試説明会、オープンキャンパスは、COVID-19感染症問題を考慮し、前年度同様それぞれ定員数を例年の半減とし、その分回数を増やし開催した。定員を減らした事で教職員および在校生がこれまで以上に参加者ひとり一人に対しより細やかに、且つ親身に対応を行なった結果、参加者からの出願率は57%となり、また参加者からの入学者数は51名と前年度に続き過去最高を更新することができた。 参加者からのアンケートにより今年度も「在学性との懇談」が、学生の生の声が聴けると好評であり、学校の雰囲気等を伝える最も良い企画であることがより鮮明となった。この内容の一層の充実を図ると共に継続的に学生の学校選びのポイントの把握に努め、分かりやすい内容とし、優秀な学生の確保に繋げたい。	3.0	・在校生との懇談により参加者が学生の声を聴けることは大変重要であり大切なことと考える。
(エ) 高等学校の訪問	2.1	2.8	COVID-19感染症の影響もあり、本校職員による高校訪問は、今年度も限定的となった。高校主催の説明会があった1校、地方の実習施設訪問時に近郊の数校の高校訪問、この他今年度初めて導入した高校推薦入学に対し推薦があった高校への入試結果報告を兼ねた訪問を行った。 高校が必要とする情報の精査や訪問のあり方の検証を行い、継続的な高校訪問を実施し、高校との信頼関係を構築し、優秀な学生の確保を図る必要がある。	3.0	・今後も訪問が難しい状況が続くようであれば、リモートのような形式も検討してはどうか。

II 学校評価ガイドラインに基づく評価項目に対する自己点検・評価

1：教育理念・目的・人材育成像

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度評価(平均)	評価(平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価(平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	2.8	2.8	本校では、看護師を養成する施設としての理念、目的、目標を定め、育成人材像を明確にしておき、教職員共通の認識の下で学生の教育・指導を行っている。	3.0	
(2) 学校における職業教育の特色が表われているか	2.8	2.8	理念、目的において、目指すべき看護専門職者としての在り様を明記し、目標において指標となるべき事項につき、具体的に7つの項目に分けて標記している。	3.0	
(3) 教育理念・目的・人材育成像は社会のニーズに合っているか	2.7	2.8	厚労省による令和4年度からのカリキュラム改正に合わせ、3年ぶりに改正を行い学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、教育理念に国際化の視点を盛り込んだ。	3.0	
(4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	2.6	2.7	理念、目的、目標、特色については、学校ホームページや学校案内、シラバスに明記している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、学生便覧を使用し周知している。また保護者等に対しては、今年度もCOVID-19感染症の影響で出来なかったが、例年保護者懇談会においても説明を行っている。	3.0	

2：学校運営

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度評価(平均)	評価(平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価(平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	2.6	2.6	目的・目標に向けて、毎年運営方針を決定し、それに基づき事業計画も理事会の承認を経て策定されている。	3.0	
(2) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	2.4	2.5	学校の運営組織の中に、細則に規定された意思決定機関として学校運営会議を置いており、意思決定機能は有効に機能している。また、教員による教務会議を月2回開催、および部門ごとの連絡会を随時開催することにより、情報の共有化を図っている。やや評価が低いのは、決定事項のタイムリーな伝達に一部問題があったとの指摘による。	2.7	・グループウェアのさらなる活用を検討されたい。
(3) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.3	2.4	人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。昇級の基準等人事評価に対する基準の明確化が今後の課題である。	2.7	・人事評価基準の明確化は実際には非常に難しい。評価する側の尺度の違い等も評価結果に表れるので実際に運用するとおかしな結果になりがちである。導入検討にあたっては外部コンサルの活用も検討すべきと考える。
(4) 各組織の意思決定システムは整備されているか	2.2	2.4	学園においては理事会を中心とした意思決定システムを整備しており、学校単位では意思決定機関としての学校運営会議がある。各部門における稟議から決裁までの各段階での承認についてもシステム化し実行している。やや評価が低いのは、決定された内容の周知に関して適切性を疑問視する意見があったことによる。	2.7	・グループウェアのさらなる活用を検討されたい。
(5) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.7	2.8	ホームページ等を利用して随時情報発信を行っている。文科省による職業実践専門課程の認定維持に必要とされる各種の情報公開事項をホームページ等を利用して適切に公開している。また、オープンキャンパスや入試説明会においては、より詳細に説明を加え情報公開を行っている。	3.0	

3：教育活動

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度評価(平均)	評価(平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価(平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(目標の設定等)					
(1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.8	2.8	令和4年度からの厚労省のカリキュラム改正に合わせ、教育課程編成委員会の議論等を加味し、教育理念から見直しこれに沿った教育課程の編成を行った。実施方針は、毎年度明示されている。	3.0	
(2) 各学年に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.8	2.8	学年別到達目標を明確に示している。またカリキュラム上の学習時間も法令で定められている時間数を上回っており学習時間は確保されている。	3.0	
(教育方法・評価等)					
(3) 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.8	2.8	法令に基づき基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分け、各分野とも密接に繋がりが、体系的に編成されている。	3.0	
(4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.7	2.7	看護学校のカリキュラムは厚労省により細部にわたり規定され、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム構成が求められており、本校はこれを実践している。キャリア教育については、令和4年度からの新しいカリキュラムには、コミュニケーションや看護倫理意識の向上を図る科目を新たに設けるなどした。その他、高校を卒業して間もない若い世代が多い事から、医療人としての心構え等を育成出来るような教育も一部実施している。近年の学生の傾向から、就職先の病院より一層の充実を望む声が多い事から、教育課程編成委員会の運用などをとおし、有意義な講義カリキュラムの設定や教育方法の工夫・開発に継続的に努める必要があると考えている。	3.0	
(5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	2.7	2.7	3年前より関連分野の団体、病院の役員等から成る教育課程編成委員会を組織し各委員による意見を反映できる体制としている。令和4年度からの厚労省によるカリキュラム改正に合わせ新しいカリキュラムの編成を行った。	3.0	

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか	2.8	2.8	病院を中心とした臨床実習を合計で23単位行い、実践的な職業教育を行っている。	3.0	
(7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	2.8	2.7	科目の最終授業後に、学生にアンケート調査を実施し、授業評価を行っている。調査内容を基に授業の改善を図っているが、学生からのアンケートの回収率が低くこの点の改善・工夫と合わせ、より客観的な授業評価の在り方の検討が必要と考えている。	3.0	・回収率向上のための工夫も考えられているようであり、継続していただきたい。
(8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.7	2.7	実習先や外部講師の方から個別に意見を伺うだけでなく、3年前より学校関係者評価委員を組織し、体系的に外部からの評価を取り入れる仕組みを構築している。学校評価を実施するなかで、外部評価の結果を教職員間で共有し、学校全体として組織・運営の改善を図る体制を整えている。	3.0	
(9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2.9	2.8	これらは「成績評価、単位の認定及び卒業に関する規程」に明記されており規程を遵守している。	3.0	

(資格試験)

(10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に位置づけているか	2.9	2.7	国家試験対策担当の教員を配置し、各学年計画的に模擬試験等の対策内容を策定し実施している。また、各学年の学修状況に応じて、クラス担任を中心に各種学力向上策を実施する体制を整えている。課題としては、国家試験対策担当教員やクラス担任など特定の教員への負担が大きい事が挙げられる。	3.0	
----------------------------------	-----	-----	--	-----	--

(教職員)

(11) 教育理念・目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.6	2.5	専任教員、非常勤講師ともに要件を備えた教員となっているが、前年度より専任教員の人数が減少したため一部の教員の負担が大きくなっている。この事がやや低い評価に繋がった。有資格の専任教員の公募による確保は困難な状況から、優秀な人材を確保し専任教員への養成を継続的に行う必要がある。	3.0	
(12) 関連分野における業界連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等の取組みが行われているか	2.5	2.7	第一線で活躍している医師・看護師をはじめ、大学等から優れた講師を招き本校の教育に協力をいただいている。専門基礎分野の一部の科目において、複数の講師による授業の分担が余儀なくされている現状があり、今後の課題となっている。	3.0	
(13) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.1	2.2	教員研修規程を設け、研修の参加費用の助成等を行っている。COVID-19感染症を発端にオンラインでの研修会が常態化しつつあり、経費的にも時間的にも受講しやすい環境となっている。しかしながら平日は授業や臨床実習先への引率等の通常業務があり、研修に参加する場合は休日または通常業務の合間となる事も多く、時間の確保が課題となっている。 この他、必要と判断した研修には、「業務」として参加をしてもらうなど教員に求められる能力等を高める為の環境を整えているが、やはり通常業務との兼ね合いで時間的な制約により十分な状況にないのが課題となっている。 教員の教育力の向上は学校経営にとって重要課題であり、計画的な研修の立案を含め積極的にサポートする必要がある。 今年度の学内研修として、道立の看護学校で問題となった教員による学生へのハラスメントに関し、他山の石とすべく顧問の弁護士に依頼しハラスメントに関する研修会を1月に開催し、ハラスメントに対する理解の向上を図った。	2.0	・教員の教育力の向上は極めて重要な課題であり、研修の受講はそのための唯一の手段である。物理的な時間確保が難しいとのことだが、一定時間の義務化も含めた仕組みづくりが必要である。 ・ハラスメント研修については毎年実施する良いと考える。 ・ハラスメントについては外部通報窓口の活用も必要である。 ・ハラスメント研修については、今後も継続して行うことを期待する。 教員の研修については、教育の質を保証するためにも必須。オンデマンドによる研修も含めて、研修の幅を広げていると思う。
(14) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	1.9	2.0	事務職員に関しても日常業務との兼ね合いで時間的な制約が大きく、外部主催の研修会への参加は無かった。事務職員の能力向上も重要課題であることからリモート研修等の情報をキャッチし計画的な研修を実施する必要がある。	2.0	・ICT化のさらなる推進によって事務作業の効率化を図り、研修の時間を確保したいところである。 RPAの活用なども検討してはどうか？

4：学修成果

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 就職率の向上が図られているか	2.8	2.8	求人情報の公開はもとより就職ガイダンスの開催等、就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来100%である。	3.0	
(2) 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.3	2.3	卒業時に実習先に就職した学生については、教員が近況や評価を聞くことがあるが、積極的・定期的には実施してはいない。それ以外の卒業生についても動向を把握しきれていない。学校からのアンケート調査や同窓会等を通じて、卒業生の勤務状況等を把握する必要がある。 教員からの連絡等は励みにもなりアンケート調査等は貴重な情報源になり得る。また、卒業生の活躍の状況は学生募集の際のPRに繋がる事から次年度以降積極的に取組む必要がある。	2.3	・卒業生の状況の把握は難しいとは思いますが、キャリア形成の把握は貴重な情報であり学校のPRにも繋がるので、引き続き仕組みづくりに取組んでほしい。 ・是非、今後期待したい。病院側としても卒業生が頑張っていることを伝える機会があれば協力したい。
(3) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.4	2.4	組織的に卒業後のキャリア形成への効果の把握を行っていない。実習先に就職した学生等、状況が把握しやすい卒業生へのヒヤリング等を行っているのが実情である。今後はアンケート調査の定例化や同窓会の開催をサポートし情報を収集し、教育課程編成委員会への諮問等を通じ教育活動の改善を図る必要がある。	2.3	・Googleを使用したアンケートも簡単にできるので、ITで繋がるシステムを構築できると良いと思う。 ・看護学生は、新卒で就職しても数か月で離職してしまう人がいると聞くことがある。理由は様々あると思うが、卒業した後も何時でも相談に乗れる窓口があっても良いと思う。

5: 学生支援

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 学生相談に関する体制は整備されているか	2.5	2.5	主に各クラス担任が学生相談の窓口となり、必要に応じて役職教員も加わり対応している。教員だけではなく事務部門においても奨学金サポートによる学生との接点を活かし、相談窓口となって対応している。 専門性の高いカウンセラーの必要性については、ニーズの把握と利用方法等について学生へのアンケート調査を実施し検討する必要がある。	2.7	・カウンセラーは万が一に備え、設置の方向で検討してはどうか。
(2) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8	2.8	文部科学省による「修学支援新制度」の対象校の取得と合わせ、担当者を配置し学生の支援を行った。また、日本学生支援機構の奨学金、その他各種奨学金の案内や助言およびサポートも行っている。また、社会人に対しては、専門実践教育訓練給付金制度の認定校として該当者に対し支援を行っている。さらに学生の家計事情によっては納付金の分割も認めサポートしている。この他、学校独自の奨学金給付規程に基づいた支援を行っている。	3.0	

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(3) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	2.8	学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、健康管理担当教員を中心に健康管理への指導、健康相談等を行っている。 学校医が2年前より不在となっているため、人材の確保を進める必要がある。	3.0	
(4) 校友会が円滑に活動するための支援体制がある。	2.7	2.8	校友会担当の教員を選任し、共用ではあるが校友会用の部屋を提供するなど、校友会活動のサポートを行っている。担当教員に負担が偏っているとの意見もあり事務部門に学生支援室を来年度から設置する事とした。	3.0	
(5) 保護者と適切に連携しているか	2.6	2.8	各学年毎年、保護者懇談会・個別相談会を開催していたが、今年度もCOVID-19感染症の影響により何れも中止した。必要に応じてクラス担任が中心となり個別に面談や電話による相談を行っている。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差など、多様性が広がる状況において、保護者との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であり、最近の保護者と学生の傾向を考えると、よりタイムリーな連携を図り家庭と学校で協力して学生をサポートする必要がある。 保護者の学校への理解の深化の方策として、年一回程度学校からの問い掛け的な発信等も今後の検討課題である。	3.0	
(6) 卒業生への支援体制はあるか	2.7	2.6	卒業生から要望があった場合には、担任であった教員が中心となって個別に対応支援をしっかりと行っている。 国家試験不合格者への支援体制は整えていたが、今年度は既卒不合格者からの合格が無かったことから支援体制を含め支援方法について再検証し再構築する必要がある。	3.0	・仕組みとしては適切に行われていると思うが、積極的に学校とつながっていない卒業生に積極的に支援の意思を伝えることも必要かと思う。
(7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.6	2.6	入試方法に社会人入学を設けている他、専門実践教育訓練給付金制度認定校の維持および札幌市ひとり親家庭自立支援給付金（親側の学びの支援）利用者へのサポート等、社会人が学べる教育環境整備に努めている。 今後も社会人在校生のニーズの把握に努め、そのサポートの方策について検討・検証し出来るものから実施したい。	3.0	

6: 教育環境

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 施設設備・教材教具・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.1	2.5	学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。 やや評価が低いのは、図書室の蔵書の数、質に対する評価である。蔵書に関しては日々進歩する医療についてより新たな情報等を学ぶ為にも、図書等を選書する仕組みやルールを作り、最新の専門書の購入を進めて行く必要がある。 教具を含めた設備・備品面においても、教育の質向上に資するものを計画的に整備購入し充実させて行く必要がある。	2.7	・予算の制約もあることから蔵書の充実は簡単ではないが、電子書籍も含め検討を継続されたい。
(2) 学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	2.7	2.7	実習指導者会議などを通し、臨地実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。実習施設が多岐・多数にわたるため情報共有・連携の均一性に差が見受けられる。今後はこの差をできる限り少なくする努力を継続的に行う必要がある。	3.0	
(3) 防災に対する体制は整備されているか	2.8	2.8	施設設備は十分に整備しており、定期的に消防設備点検（年2回）を行っている。消防訓練については、今年度はCOVID-19感染症の影響によりやむを得ず中止した。災害時に学生・教職員の安否確認を確実に迅速に行える安否情報システムを導入しており、定期的にその使用訓練を行い稼働状況を確認・指導を行っている。 防災用品の備蓄として、保存水、乾パン、非常用トイレ、携帯カイロを今年度も購入した。今後も計画的に備蓄品の整備を進める必要がある。	3.0	

7：学生募集

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 高等学校に対する情報提供が行われているか	2.7	2.8	学校ホームページにて情報の提供を適宜行っている。公開されている情報は、文科省による職業実践専門課程の認定および維持に必要な情報内容となっている。本校の在校生及び新卒生についての状況報告はもとより、高校訪問を実施する中で高校が求める情報の把握に努め、適切な情報の提供を行う必要がある。近年高校の大学志向が強い状況から、専門学校の良い点の広報は極めて重要と考える。高校の在学生にとって重要な情報の一つである、OB、OGの声をホームページ上に数多く掲載することを今後早急に進める必要がある。	3.0	
(2) 学生募集活動は、適性に行われているか	2.7	2.9	文部科学省・入学者選抜実施要項に基づき、学生募集活動は適正に行われている。	3.0	
(3) 学生募集活動において、国家資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	2.8	2.8	学校案内等において記載し、最新の情報については、ホームページ上で公表している。これら以外にも高校訪問、入試説明会、オープンキャンパス、個別相談会等で伝えている。	3.0	
(4) 多様な選抜方法と学生の状況について検討しているか	2.8	2.9	北海道の地域医療に貢献できる看護師の育成を特色としており、選抜方法に地域指定推薦制度を設け、また社会人のニーズにも対応できる様、社会人入学を設けている。さらに、一般入学については、前期日程、後期日程と時期をずらした選抜方法を設けている。高校新卒者の入学者減少傾向を鑑み、優秀な高校生の確保の観点から、今年度より高校推薦制度を導入した。	3.0	
(5) 入学選考は、適性かつ公正な基準に基づき行われているか	2.9	2.9	学科試験問題の作成および管理は厳正に行われており、合否については、本校の定める入学試験面接評価基準および合否判定基準に基づき合否判定会議にて適正かつ公正に行なっている。	3.0	
(6) 学納金及び教科書代等の実費に係る負担金等は、妥当なものとなっているか	2.9	2.7	学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や臨床実習経費等を鑑みて、適切な金額設定としている。教科書代等の実費負担金等についても、その必要性を吟味し、各協力業者からの見積金額を精査の上、業者決定金額を直に学生負担金としており、妥当なものとなっている。	3.0	

8：財務

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7	2.8	近年の経営状況から、財政基盤の安定化が図られている。今年度の決算も、予算を上回る黒字が予想される状況である。今後とも学園全体での入学者の確保と適切な支出管理を行い、継続的な財務基盤の安定化を図る必要がある。	3.0	
(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.6	2.8	予算・収支計画については、定員の充足を前提に例年の状況を参考に立案し、理事会、評議員会で審議され、作成されている。年度ごとの予算の執行内容は妥当である。	3.0	
(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	2.7	2.9	会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。	3.0	
(4) 財務情報公開の体制整備はできているか	2.8	2.9	学園の財務情報公開体制は整備され、財務情報は公開されている。学校単体については、現状公開されていないが、教職員に対しては学校の収支状況を説明している。	3.0	

9：法令等の遵守

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2.8	2.7	専修学校設置基準、看護師学校養成所指定規則、看護師養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営がなされている。	3.0	
(2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.8	2.8	学園として個人情報の取扱いに関する規程を整備し、その保護の対策が取られている。また、日頃から注意喚起を行いその保護に努めている。学生に対しては情報倫理に関する規程を設け学生便覧に記載している。その他臨床実習要綱書においても個人情報の保護に関し細かく明文化しその保護の徹底を図っている。	3.0	・学校における個人情報の取扱は非常に重要である。とある自治体でUSBメモリの紛失による情報漏洩がニュースとなったがUSBを使う場合にはパスワードを掛けたり、物理的にUSBの使用ができないようにする等の対策も検討の必要がある。パソコンのログの管理も必要かもしれない。
(3) 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか	2.7	2.7	自己点検・評価を実施し、それを基に学校関係者評価委員会を開催し、それぞれ学校自己点検評価結果および学校関係者評価委員会報告書として学校ホームページ上に公表している。自己点検と合わせ外部の委員の意見を採り入れ問題点を把握している。やや評価が低いのは、改善が進んでいない事項がある事による。	3.0	・改善が進んでいない事項もあるかもしれないが、外部評価の結果については改善の努力をされていると感じる。

10：社会貢献・地域貢献

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者 評価委員評価 (平均)	学校関係者評価委員の主な意見等
(1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.1	2.5	外部からの要望により、学校施設や教材の貸し出しを行っているが、積極的には告知活動はしていない。今年度の実績は、看護協会の研修場所として施設の一部を提供した実績がある。今後要望の範囲の中で出来る限り対応したいと考えている。	3.0	・現状の対応で十分と考える。 ・シミュレーション研修など、施設・設備を活用させていただいている。今後も社会貢献として継続していただきたい。職場の先輩も学校を知る機会となり、卒業生と話題の共有ができて良い。
(2) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.2	2.4	公開講座・教育訓練の受託については、マンパワーの問題や、安全面を指摘した学校関係者評価委員会の意見もあり、積極的には実施はしていない。要望があれば検討し受託するという方針としている。	3.0	・現状の対応で十分と考える。 ・積極的に企画をするのはコロナ収束後でも良いと思う。